



りんごの収穫を行う中学生



照明電源に風力発電を利用



城下町であった歴史を再現した御用水

DATA・BOARD 16

- ①長野県飯田市扇町・知久町・本町・通り町・松尾町・中央通り
- ②延長：約350m, 幅員：約30m
- ③JR飯田線飯田駅から徒歩10分, 中央自動車道飯田ICから車で10分
- ④飯田市動物園, 人形時計塔ハミングバル, 飯田市美術博物館, 赤門, 飯田文化会館, 飯田人形劇場, 元善光寺, 竹田扇之助記念国際糸繰り人形館, 猿倉の泉
- ⑤飯田人形劇フェスタ, 飯田市農業祭, やまびこマーチ, りんご並木バザール, りんご並木クリスマス



16 りんご並木



飯田市では、昭和二十二年に市内の約七割が焼失するという大火が発生し、復興時に造られた都市計画道路に、飯田東中学校の生徒により四十本のりんごの木が植えられた。

この「りんご並木」は、生徒たちを中心に維持されてきたが、植えられてから約半世紀が経過し、木が大きく成長するとともに、車社会の進展により人や車との共存が難しくなってきた。

そのため、りんごが育つ環境を都市の中に作り上げ、人が集まる楽しい街、次世代の子供のために誇れる整備を目標に、飯田市復興のシンボルともいえるりんご並木の再整備を行った。このプランは、飯田東中学校をはじめ十五の市民団体等で構成された、りんご並木まちづくりフォーラムにより策定された。

整備にあたっては、りんご並木の心を引き継ぎ、人とりんごがふれあえる並木をめざし、りんごの植栽部分を大きく取りながら芝生を植えている。また、人々が自由に歩き、りんごの木と親しめるように、歩道と車道の区分けをなくし、飯田が城下町であったことから大手門広場や用水路を設けている。

周辺は樹木も増やされ、電線の中地化も行われ、路面は煉瓦敷きにするなど、落ち着いたムードに包まれた公園のような道路に生まれ変わった。

りんご並木の手入れや収穫は、飯田東中学校の生徒や市民によって行われており、まちづくりの中にあることの心が受け継がれた事業となっている。